

一流安心章(四帖第十四通)

一流安心の体という事、

南無阿弥陀仏の六字のすがたなりとするべし、この六字を

善導大師釈していわく、言南無者即是歸命。

亦是發願回向之義、言阿弥陀仏者即是其行、以斯義故、

必得往生といえり、まず、南無という二字は、すなわち歸命とい

うころなり、歸命というは、衆生の阿弥陀仏、後生たすけたま

えと、たのみたてまつるころなり、また、發願回向というは、たの

むところの衆生を、攝取してすくいたまうころなり、これすなわ

ちやがて阿弥陀仏の四字のころなり、されば、われらごときの

愚痴闇鈍の衆生は、なにところをもち、また、弥陀をばなにと

たのむべきぞというに、もろもろの雜行ぞうぎょうをすてて、一向一心いっこういっしんに。  
後生ごしょうたすけたまえと弥陀みだをたのめば、決定極樂けつじょうごくらくに往生おうじょうすべきこ  
と、さらにその疑うたがひあるべからず、このゆえに、南無なむの二字は、衆生しゅじょうの  
弥陀みだをたのむ機きのかたなり、また、阿弥陀仏あみだぶつの四字は、たのむ  
衆生しゅじょうをたすけたまうかたの法ほうなるがゆえに、これすなわち。  
機法きぼう一体いったいの南無阿弥陀仏なむあみだぶつと申すころなり、この道理どうりあるがゆ  
えに、われら一切衆生の往生いっさいしゅじょうの体たいは、南無阿弥陀仏なむあみだぶつときこえた  
り、

あなかしこ　あなかしこ

(不読)

明応七年四月　日

## 一流安心章の大意

浄土真宗の安心というのは南無阿弥陀仏の六字のいわれを聞き開くことです。

善導大師はこの六字を、「言南無者即是歸命 亦是發願回向之義 言阿弥陀仏者即是其行 以斯義故 必得往生」と釈されています。「南無」とは歸命ということであり、「歸命」とは、衆生が阿弥陀如来におたすけくださいとおまかせすることです。また發願回向とは、おまかせした衆生を如来がおさめとしてお救いになることです。これはそのまま「阿弥陀仏」の四字の意味でもあります。

そこで私たちのような愚かなものは、どういう心を持ち、また阿

弥陀如来をどのようにたのみたてまつればよいのかというと、自力にたよることをやめ、後生をおたすけくださいと二心なく阿弥陀如来におまかせするのです。そうすれば、浄土に往生することは疑いありません。

このように、「南無」という二字は、衆生が阿弥陀如来をたのみという機をあらわしており、「阿弥陀仏」の四字は、たのみ衆生をおたすけくださる法をあらわしているから、機法一体の南無阿弥陀仏というのです。このようないわれがあるので、私たちの往生は南無阿弥陀仏の六字にあらわし尽くされているのです。